

令和4年度 第1回

丹波市有償運送運営協議会

議 事 録

閲覧用

1 開催日時 令和5年3月14日(火) 午後3時30分 開会

2 開催場所 ハートフルかすが

3 出席者 (委員)

長 田 貴	会長		
本 間 和 典	委員 (代理出席)	竹 内 和 重	委員
水 田 節 男	委員	蘆 田 長 門	委員
小 松 忠 重	委員	石 田 光	委員
木 寺 章	委員	畑 敏 幸	委員
上 月 康 久	委員	吉 見 和 幸	委員
北 川 博 巳	委員		

委員12名出席

4 欠席者	大 野 亮 祐	副会長	清 水 徳 幸	委員
	谷 和 義	委員	田 中 康 嗣	委員

(事務局)

只今から、令和4年度第1回の丹波市有償運送運営協議会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中また先ほどから引き続きであります但よろしく
お願いいたします。

[代理出席、欠席委員報告]

それでは以降の進行につきましては長田会長にお渡しをいたします。どうぞよろしく
お願いいたします。

(会長)

皆さんこんにちは。効果的かつ効率的に会議を進めていきたいと思しますので、ご協力
のほどよろしくをお願いいたします。この時期になりましたら、有償運送の会議も年度末に
なると多くなってきました。数週間前には朝来市で有償運送の会議があり、来週には南
あわじ市へ会議に行ってきます。今回は福祉有償運送ではないですけれども、交通の空白
地帯の有償運送ということです。有償運送の会議というのは、福祉に限らず共通した様々
な課題があると思います。本日は、報告していただく特定非営利活動法人 鴨庄さんの課
題を共有しながら未来へ向けてこれからどうなるのだろうといったことも含め、様々な視
点で考えながら、地域の方々のために車を走らせていただいています。報告を聞かせてい
ただきながら、これからの未来に向けてしっかりと歩んでいけるような形で協議会がサポ
ートできればいいなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたしま
す。

それでは、報告事項に入らせていただきます。公共交通空白地有償運送の状況につい
て、「鴨庄ふれあいバス」を運行されています「特定非営利活動法人 鴨庄」からご報告を
お願いします。

(NPO 鴨庄)

平成21年1月20日にNPO法人として国から認可をいただき、公共交通空白地 有償運
送事業ふれあいバス事業の地域高齢者のバスとして開始してから、事故もなく14年が経
過しました。

令和4年度の運行は、月曜、水曜、金曜の週3日の午前中運行で全128日間運行を実
施、予定しています。祝日、お盆、年末年始、積雪で運休は12日間でした。運賃につい
ては、平成21年8月から片道200円の運賃です。利用者につきましては2月末時点で
1,263名あり、昨年度より63名増加しています。外出支援のデマンド券の利用で増えたの
ではないかと思っております。しかし14年間の推移から見れば、利用者は減少傾向にあ

ります。それは高齢者利用が減少したことと、デマンドタクシーのサービス利用者が増えたことが原因と思われます。

「鴨庄ふれあいバス」は、高齢化が進む地域の大きな課題解決である、公共交通の手段として期待され、利用者から好評を受けております。

地域安全活動としては、PTA 運動による子どもの見守り、防犯グループによる防犯パトロールにも、鴨庄ふれあいバスを有効に活用しております。

この活動にとって安全な運行が大事でありますので、NPO 会員一同連携をとりながら、安定運転に努め、安心して住みやすい町づくりを目指しています。

また新型コロナウイルス感染防止に向け、車内に検温器、消毒液、予備マスクを設置。令和4年度より飲酒運転防止のため、アルコール検知器を導入し、安全な管理体制を図っています。しかしながら運転手も高齢化しつつ、市町村運営輸送運転者講習を今後適宜実施し、運転手の確保を図らねばなりません。こうした将来を見据えた取り組み等を実施し、この3月末で地区内の診療所が閉院する中、生活支援と地域の移動手段は守らなければなりません。ぜひ今後とも鴨庄ふれあいバスを存続させていただきたく、お願い申し上げます。

(会長)

ありがとうございました。事務局から補足などありましたら、お願いいたします。

(NPO 鴨庄事務局)

只今報告のあった通り14年間運行しております。運行時間は、月曜、水曜、金曜の週3日の午前で、第1便と2便があります。第1便が9時スタート、第2便は10時スタートです。主な仕事としては、最寄りのスーパーへの買い物で、片道がだいたい3キロ、4キロで長いところで7キロ程あります。中には目的地が、診療所や薬局、市役所、歯医者への利用もあります。最近、気になるのは利用者の高齢化が進んできていて、利用していただいていた方が、亡くなられたこともあり、利用者が若干減ってきています。鴨庄の人口が1,200人弱でそのうち高齢者が8割ほどになります。

14年間無事故で続いております。大雪、大雨、災害の場合は運行を中止します。先日の大雪の時には、さすがに運行できなかったため、前もって放送で運行についてのお知らせを実施しております。

ふれあいバスという名の通り、利用していただいている方には、高齢者の一つの触れ合いの場所になっております。利用者していただいている方が限られています。中には「今日乗りたい」と電話連絡が入ることもありますので、その際にはお迎えに行きます。一つ問題なのは、お迎えに行ってみないと乗るかどうかわからないことがあります。なぜかという停留所の時間が決められていますが、誰もいないこともあります。この件に関しては、時刻表通りに運行してみないとわからないこともあります。1便が利用者ゼロで、2

便が多い時や逆の時もあります。運賃 200 円でやっておりますが、中には安すぎるため値上げしようという声もありますが、なんとかこの状態で続いております。

運転手は 37 名で、毎月希望の日を運転手に提出してもらいシフトを組んで運行しております。やはり安全運転が 1 番ですので、危険な場所へは行かないということで運行しております。

(会長)

ありがとうございました。先ほど説明していただいた内容を資料別紙 1 にまとめていただいております。そして別紙 2 は路線図です。停留所も記載されています。定時定路線ということで運行をしていただいております、需要がある場合は一部デマンド路線という形で対応していただいております。

資料の通り利用人数が減ってきています。これからの推移はどうなるかわからないですが、様々な課題を有している中で委員の皆さんからの疑問点や意見等はございますか。

(委員)

何か今年度変更点があったか、運行管理体制が整っているかどうか、運転者の要件がしっかりと確認できているかどうか、3 点の安全対策について、資料には記載されていないので確認はされているとは思いますが、念のため確認をさせていただきたいです。

(会長)

本来は先ほど挙げてもらった 3 点については、資料を会議で委員の皆さんに確認していただいたうえで、協議を進めていくことが一番良いです。この件について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

本日の資料につきまして、確認できない部分があることは申し訳ございませんでした。運行形態につきましては、コロナ禍にあり昨年度は検温など対策を行った上で運行をしていただいていること事務局で確認させていただいておりますことをご報告します。

(委員)

提出する書類関係については要件が満たされているものということですね。

(委員)

確認ですけど、空白地帯運送ということで、福祉とは若干の違いがあるかと思います。登録者というのはどういったものですか。乗っていただいている小学生までは無料や随時

乗れることもあって、定期的に乗られている方は登録者、利用者として資料があるのですか。

(事務局)

デマンドと同じような、利用者登録をしているかということでしょうか。

(委員)

言い方は様々ありますが、登録をした方への運用などは、福祉運送などは特に範囲が決まっています。新たに登録するかどうか。随時に会員に対応されているようですが、ランダムに誰でもいいのかではなく、有償運送ですから名簿などが揃っているのかを確認をしたいです。

(事務局)

利用されている方の名簿は鴨庄様より提出していただいておりますので、事務局でも確認させていただいております。

(会長)

そのほかご質問・ご意見があればお受けいたします。

(委員)

先ほどの会議（丹波市地域公共交通活性化協議会）で、市島から丹波医療センターへの社会実験という話がありました。市島町という地域特性の中で、公共交通機関との兼ね合いでこれからどうなっていくのだろうということもあると思います。そのあたりのことについて、これからこうなっていくと決まったわけではないですし、いろいろな変化の中で変わることがあると思いますが、懸念する点あるいは発展的な部分を含め何かありましたらご意見をお願いしたいです。

(NPO 鴨庄事務局)

路線バスを社会実験で運行されていたことに付随して、鴨庄はしないのかといったような意見もありました。交通計画が策定されれば、ふれあいバスの在り方なども出てくると思います。ただふれあいバスと路線バスとは意味が違いますので、どこで仕切るのが大事だと思います。路線バスとなると時間がきっちり決まってきますが、ふれあいバスは時間きっちりとはいかないので、路線バスに合わせるとなると、こちらが変更せざるを得ない。そうすると高齢者の買い物の時間など気にしてもらわないといけない。そのあたりについては懸念することがあります。交通計画の策定で地域を発展させてもらうことはも

もちろんいいことですが、先ほどの件との兼ね合いなどいつになるかはわかりませんが、その点が懸念されます。

(委員)

先ほどお医者さんの話が出ていましたが、やはり医療や学校や買い物などの自分の活動のアクセスはすごく大事だと思っています。今のところ鴨庄地区における医療や学校、生活のアクセスの現状、小学生の乗車状況などのバスを利用される方の特徴はありますか。

(NPO 鴨庄事務局)

今まで小学生が乗車したことはありません。冒頭に説明させていただいたように診療所は3月をもって閉院、小学校も統合にて閉校します。こういったことがこれからの地域づくりの大きな課題となっています。スクールバスが4月から運行することが決まっています。

鴨庄の診療所がなくなれば、どこの病院へ行こうかとなると、近くだと吉見の診療所や春日の診療所があり、交通手段が必要となります。ただふれあいバスは春日の診療所や丹波医療センターへは行けません。駅まで送っていくことはあっても、診療所や病院へは送っていきません。そのあたりの兼ね合いが難しいと感じております。

では地域医療はどうなっていくのだろうかという、バスの話ではありませんが弱っています。我々としては医療センターへ行くまでのワンクッションの地域医療をやってほしい。3月で診療所が閉院するので、4月からどのように変わっていくのか気にしています。

(会長)

流動的なものもあると思います。丹波医療センターへ直行便はないけれども、市島地域は京都府と隣接しているので、京都府へ医療を目的に行っている人もいるのではないのでしょうか。その方たちを丹波市へ振り向かせようとするのではなく、市島の地域特性の中での有償運送として、特徴的なところが当然あると思います。医療施設が無くなったという部分もあれば、これからまたできる可能性ももしかしたらあるかもしれない。空想的なこととは言えませんが、地域の非常に密着した移動事業を行っている中で、特に今の地域の高齢者の方々の見守りにも寄与しているなと思います。「あの方最近利用されないな。」とか、非常に地域貢献としての役割というのは、市島地域のような高齢化率がどんどん上がっているところに関して、移送手段を用いながら見守りにも寄与している。より福祉的な意味合いを有した有償運送事業を展開されている特性があるかなと私は感じました。個人的な意見を言わせていただきましたが、皆さんはどうお考えでしょうか。何かありましたら、お願いしたいと思います。

今までの協議を通して、市島地域特性のところでのこれからの公共交通機関等を含めたトータル的な視点で考える材料が共有化出来ると思います。

(委員)

地域の細かいところまで全然わからないですけど、単に少し聞きたいのですが、診療所がなくなるという話があって、その場合には吉見の診療所へ行くということでしたけども、その診療所へはバスで通常行けるルートを組んであるのでしょうか。

(NPO 鴨庄事務局)

行けます。

(会長)

診療所はなくなるのは決まっていることですので、診療所が無くなって流れが変わるわけですね。その流れで先ほど言われていたように、春日や他の町をまたぐときにそこまでは行けないので、どこかで繋ぎをしっかりと出来るのかを非常に心配しております。利用者の方がどうされるかということは当然ありますが、同じように利用して流れが変わる中で乗り継いで行かなければならなくなった時に、繋ぎをどのようにお考えですか。

(NPO 鴨庄事務局)

繋ぎは心配です。例えば病院を予約し、診療が終わった時に帰るに帰れないことも。ふれあいバスは利用者さんを降ろして、ほかの利用者さんがいるため、迎えには行けませんので病院で待っておいでもらうことはしております。そしてスーパーで買い物をされて、そこでも終わったら待ってもらっています。だいたい30分～40分待ってもらっています。第2便の方はスーパーで買い物が終わったら、乗って帰ってもらいます。繋ぎが大事です。

(会長)

ありがとうございました。

(NPO 鴨庄)

先ほどの説明の補足をします。第1便で診療所へ送り、第2便の間で済むときもありますが、時間がオーバーする場合があります。その時はタクシーで帰っていただくということになります。

(会長)

ありがとうございました。今までもそういったやり方だったのですね。ほかにご意見・ご質問はございますか。

運転手さんの確保の話もありましたが、運転手さんが高齢化してきており、運転手さん自身の免許証を返納といったような話が蔓延していますが、高齢者の方が運転するということは非常に社会貢献としては大事なところがあるということも出来ます。しかし募集をしてもなかなか難しいという話を以前から聞かせてもらっています。今、運転手さんは何人いらっしゃるのですか。

(NPO 鴨庄事務局)

講習受けて登録してもらって、毎年何人か増えていっています。現在、39 名いますが、実際の運行で運転してもらっているのは 15 名ほどです。講習を受けたすべての方が運転を出来るわけではないです。

(会長)

それだけの人数がいらっしゃるのですね。ちなみに、平均年齢はどれくらいですか。

(NPO 鴨庄事務局)

60 歳前くらいです。

(会長)

他の地域では 70 歳超えているところもありますからね。

(NPO 鴨庄事務局)

鴨庄の場合、73 歳以降は運転を辞退されています。

(委員)

利用者さんが誰も乗らない時があるということに問題があり、定時定路線で現在は運行を実施されている課題もあると思いますが、一部はデマンドを利用されていますが、ふれあいバスをデマンド化するとすると、しんどい部分があるのでしょうか。

つまり要望がない時は運行しないというやり方もあるのかなと思っております。とは言え地域のパトロールといった仕事もあるといったそういう意味では定時定路線で利用者が 0 人でもいいので運行されているところもあると思っております。今のところどうかという議論などは出てないでしょうか。

(NPO 鴨庄事務局)

どっちを選んでもらうかは利用者さんによると思います。パトロールとしてはPTAも集まっています。

(委員)

地域の中では、いろんな要素をみんなで作っているというところですね。定時定路線でほかの仕事をいっぱい探すのもありだと思っています。例えば、物を運ぶなどいろいろあると思います。

(会長)

運営していただいている方々が地域のことをよくご存知なので、どのようにやっていくかをこれから考える部分もあるのではないかと思います。地域密着していることはよく実感できていますので、継続してほしいと思っています。

私は福祉的な視点というのが、非常に地域を繋いでいくのに大事な役割を担ってくれるかなと思います。今日は協議ではなく報告事項ということで、こういった現状があるということ、委員のみなさん本日の会議で分かっていたかなと思います。

地域密着型の有償運送となりますが、これからも発展的にお願いしたいということで、皆さんよろしいでしょうか。

(質問・意見なし)

(会長)

以上を持ちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。